



STAND UP TAKE ACTION

AGAINST POVERTY AND FOR THE MILLENNIUM DEVELOPMENT GOALS

活動報告書
2008

STAND UP TAKE ACTION 活動報告書2008

【発行人】山名芳雄（STAND UP TAKE ACTION実行委員長）

【編集人】笠原由晶（STAND UP TAKE ACTION実行委員）

【制作】浜井美歩（ボランティアスタッフ）

【発行所】STAND UP TAKE ACTION実行委員会事務局（特定非営利活動法人アフリカ日本協議会（AJF））

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル2F

TEL：03-3834-6902 FAX：03-3834-6903 E-MAIL：office@standup2015.jp

【PCサイト】<http://www.standup2015.jp/> 【携帯サイト】<http://www.standup2015.jp/m/>

【グローバルサイト】<http://www.standagainstpoverity.org/>（英語・フランス語・スペイン語・ポルトガル語）



「貧困を終わらせたい。」 世界中に大きな声で届けよう。

世界の貧困問題解決を目指して

2000年に採択されたミレニアム開発目標（MDGs）。

世界189カ国のリーダーたちが

「2015年までに世界の貧困を半減すること」などを約束しました。

しかし、開発途上国への資金援助や技術支援は進んでおらず、

目標の達成は大変むずかしいとされています。

そのような状況のなか2006年に始まった

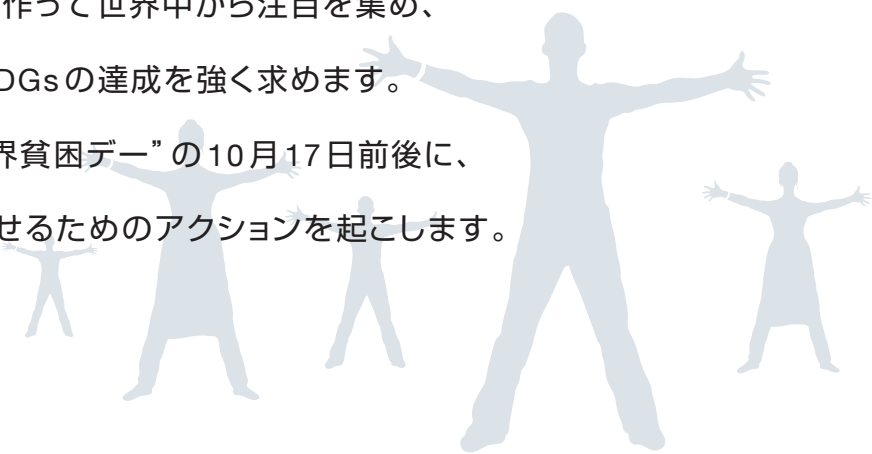
グローバルアクション“スタンド・アップ（STAND UP）”。

参加者数でギネス記録を作って世界中から注目を集め、

各国のリーダーたちにMDGsの達成を強く求めます。

毎年、国連が定める“世界貧困デー”の10月17日前後に、

立ち上がり貧困を終わらせるためのアクションを起こします。



スタンド・アップの運営主体

国連ミレニアムキャンペーンとGlobal Call to Action Against Poverty (GCAP)^{*}が推進。2008年、日本では複数のNGOで構成されるSTAND UP TAKE ACTION実行委員会と国連広報センター（UNIC）が主な運営を担いました。

^{*} 100カ国以上に広がる、貧困問題解決を目的とした世界最大のネットワーク。

共 催 STAND UP TAKE ACTION実行委員会 [特定非営利活動法人アフリカ日本協議会（AJF）、特定非営利活動法人オックスファム・ジャパン、特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド、特定非営利活動法人ほっとけない世界のまずしさ、YDP Japan Network]、国連広報センター（UNIC）

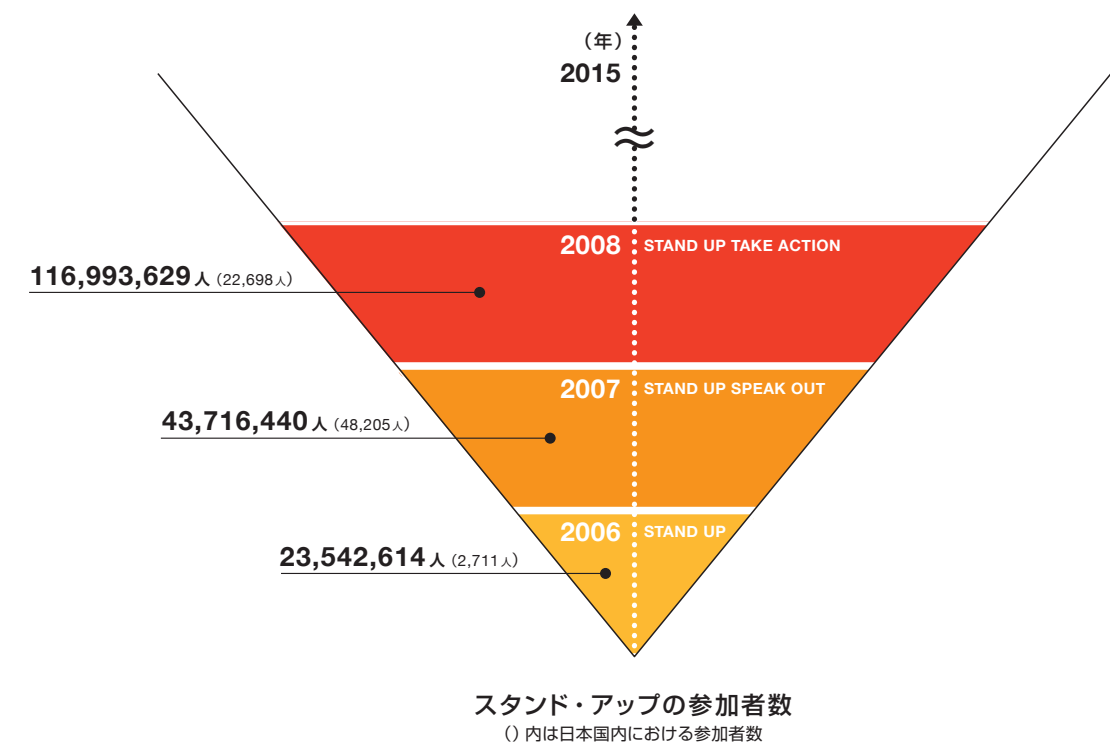
後 援 外務省、独立行政法人国際協力機構（JICA）

協 賛 Inter FM

助 成 国連ミレニアムキャンペーン、特定非営利活動法人ほっとけない世界のまずしさ

MDGs達成に向けたスタンド・アップのこれまでとこれから

2006年に産声を上げたスタンド・アップ。日本国内では2711人、世界では2354万2614人がアクションに参加しました。3年が経ち、参加者は5倍にまで増加。自身の持つギネス記録を毎年更新しています。年々高まる「貧困を終わらせたい」という声を、これからも世界中に届けます。

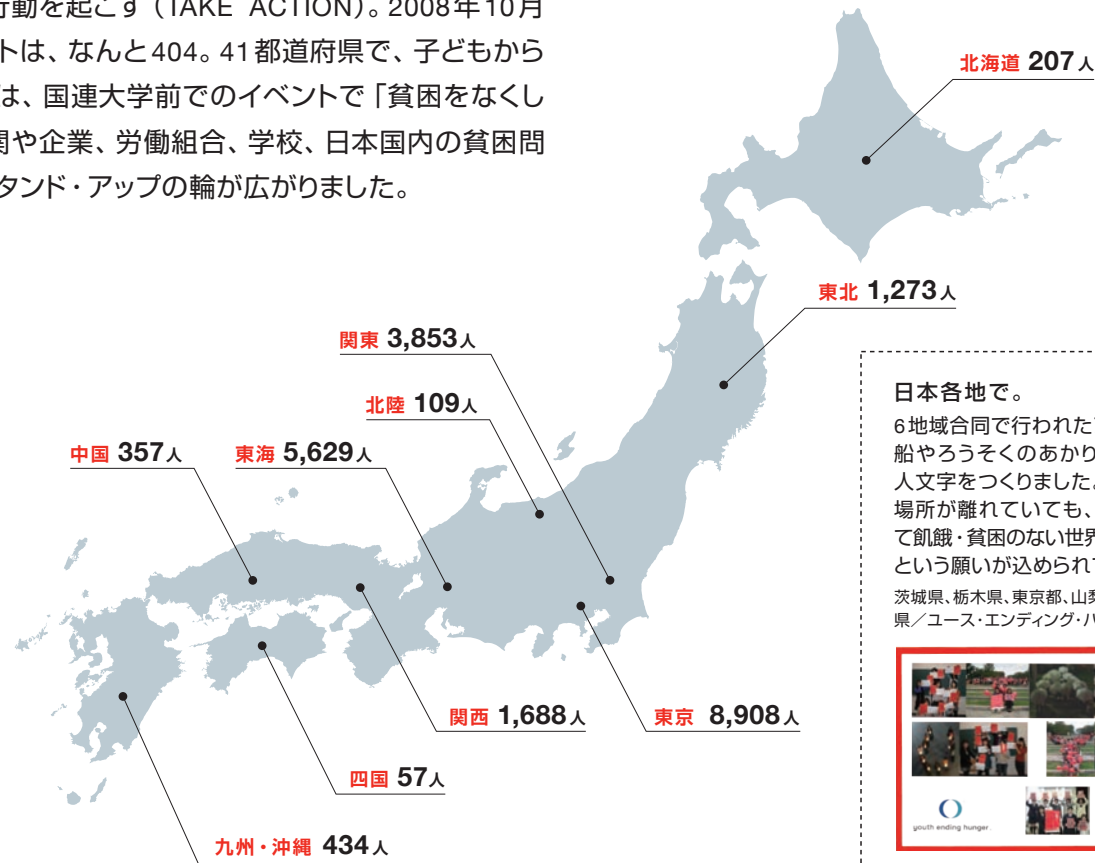


History

2006	2007	2008
「貧困をなくそう」という世界の人々の声を一つにするために、スタンド・アップは始まりました。1年目に見事ギネス記録を樹立しました。	自身の持つギネス記録を更新しました。日本でもプロサッカー国際試合の協力を得るなどして、参加者数が飛躍的に増加しました。	世界131カ国で7777のイベントが実施され、ギネス記録をまたしても更新しました。日本では草の根のイベントが増加しました。

世界ーシンプルな国際貢献、スタンド・アップ。 日本では2万2698人が立ち上がりました。

立ち上がって（STAND UP）、貧困問題解決のための行動を起こす（TAKE ACTION）。2008年10月17・18・19日の3日間で実施された日本国内のイベントは、なんと404。41都道府県で、子どもからお年寄りまで幅広い世代が参加しました。実行委員会は、国連大学前でのイベントで「貧困をなくしたい」というメッセージを世界に向けて発信。国際機関や企業、労働組合、学校、日本国内の貧困問題に取り組むネットワークなど、さまざまな関係者にスタンド・アップの輪が広がりました。



※その他、都道府県の記載はありませんでしたが183名から報告が届いています。

東京・表参道（10/18）

STAND UPの大きな人文字。

国連大学前でのメインイベントに集まった参加者は約200人。「貧困を私たちの世代で終わらせよう」と書かれた宣誓文を力強く読み上げ、世界に発信する「STAND UP」の人文字を作りました。



東京・霞ヶ関（10/17）

外務省も、市民と一緒に。

外務省で行われたスタンド・アップには、政府開発援助（ODA）を担当する国際協力局・木寺昌人局長も参加。170人が「スタンド・アップ!」のかけ声とともに立ち上がりました。



東京・明治公園（10/19）

国内ネットワークと力を合わせて。

日本国内の貧困問題に取り組む「反貧困ネットワーク」と協力し、集会の参加者2000人とともにスタンド・アップ。参加者ひとり一人が、貧困問題の解決に向けた思いを自由に表現しました。



ユニークフォトコンテスト受賞作品

実施されたイベントの規模や内容はさまざま。その中から、ユニークフォトコンテスト受賞作品をピックアップしてご紹介します。

いちばん身近な仲間と。
家族とのスタンド・アップをケータイで撮影。ぬいぐるみも参加しました。
神奈川県／カネコ家一同



修学旅行先のヒロシマから。
原爆ドーム前で平和を祈りながら、スタンド・アップ。
広島県／マキノ北小学校6年生



日本各地で。
6地域合同で行われたアクション。風船やろうそくのあかりなどを使って人文字をつくりました。「住んでいる場所が離れていても、心をつなげて飢餓・貧困のない世界をつくりたい」という願いが込められています。
茨城県、栃木県、東京都、山梨県、愛知県、島根県／ユース・エンディング・ハンガー・ジャパン



会社の同僚たちと。
一人一人ができる事は小さくても、それぞれが積極的に活動することで大きな動きになる。参加者たちは、グローバルイベントの素晴らしさを実感しました。
静岡県／リコー三愛サービス御殿場事業所



チアリーディングで。
2007年に続き2年目のアクション。「貧困で苦しむ人々に元気を与えたい、笑顔になって欲しい」と願いながら活動を続けています。
東京都／青山学院女子短期大学チアリーディング部 GRACES



ゲートボール大会で。
戦争を体験した世代だからこそ伝えられる平和の素晴らしさ。世界の平和を願って行動を起こしました。
三重県／第20回「全国福祉ゲートボール大会」



着物姿で。
茶道教室の仲間とともにスタンド・アップ。美しい和服に身を包んで行われた雅なアクションです。
東京都／裏千家東京道場土曜稽古一同



全校生徒で。
生徒会が中心となりイベントを企画しました。中学生551人が参加した元気なスタンド・アップです。
京都府／同志社中学校

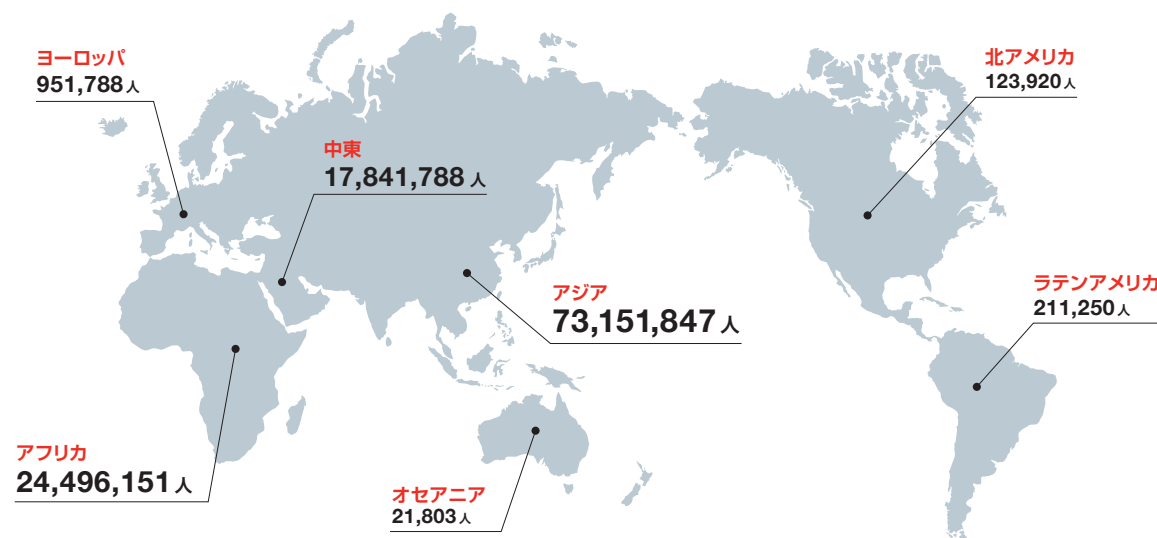


【メディア掲載一覧】 STAND UP TAKE ACTIONの取り組みが多くのメディアで報道されました。

◎新聞掲載記事7件・・・10月16日 朝日新聞（夕刊）：スタンド・アップ、渋谷ゴミ拾いイベントの紹介／10月16日 読売新聞：スタンド・アップの紹介／10月18日 朝日新聞：国連大学前で行われた各国大使や国連職員によるスタンド・アップの紹介／10月18日 産経新聞：スタンド・アップの紹介／10月18日 Herald Asahi：国連大学前で行われた各国大使や国連職員によるスタンド・アップの紹介／10月20日 朝日新聞：反貧困ネットワークで実施したスタンド・アップを紹介／10月21日 公明新聞：実行委員会によるメインイベントを紹介
◎WEB掲載記事33件 ◎ラジオ4件・その他3件

生まれた国は違っても、想いは一つ。 131カ国で1億1699万3629人が 立ち上がりました。

2007年に1億人を突破したスタンド・アップの参加者数は、世界人口の2%にも相当します。「MDGsを達成してほしい」という市民の声が高まるイギリスでは、ブラウン首相が官邸公式ホームページでスタンド・アップへの支持を表明。「GNI比0.7%をODAに拠出する」というMDGsに掲げられた約束の実現をあらためて宣言しました。また、アフガニスタンやウガンダでは国会議員たちも活動に参加。市民たちの間ではじまったスタンド・アップは、各国政府をも巻き込みながら世界中に広がっています。



アジア

インドでは1772万4359人が参加しました。この活動をきっかけに、MDGsの達成に向けた取り組みを強化する超党派の議員連盟が設立されました。



アフリカ

1991年の内戦から今なお、武装勢力間の抗争が各地で続くソマリアにて。争いや貧困がなくなること強く願い、国内難民キャンプでスタンド・アップ。



先進国

ニューヨークの国連本部前で行われたスタンド・アップ。国連総会議長、国連事務次長、各国政府の代表部やNGO職員など837人が参加しました。

UN Photo by Jenny Rockett



わたしたちの ゴール

ミレニアム開発目標（MDGs）

ミレニアム開発目標（MDGs）は、先進国と開発途上国の代表者たちがともに協力しあい、貧困のない世界を実現するためのグローバルな目標です。2000年9月の国連ミレニアムサミットで採択された「国連ミレニアム宣言」にもとづいて、これまでの開発目標が統合されました。貧困問題や教育、医療など分野ごとの具体的な数値目標を定め、2015年を期限として実現を目指しています。



目標1 とてつもない貧困と飢えをなくそう



目標2 みんなが小学校に通えるようにしよう



目標3 ジェンダーの平等を進めて女性の地位を向上させよう



目標4 子どもの死亡率を下げよう



目標5 女性が健康な状態で妊娠し、子どもを産めるようにしよう



目標6 HIV/エイズ、マラリア、その他の病気が広がるのを防ごう



目標7 環境の持続可能性を確保しよう



目標8 世界の一員として、先進国「も」責任を果たそう

MDGsを達成するために必要なこと

今、世界では、1年間で5歳未満の子どもたちおよそ1050万人が、助かるはずの病で命を落としています。MDGsの達成期限まで、あと6年。しかし、その取り組みは十分とはいえず、多くの分野で目標の達成が危ぶまれています。一方で、希望がない訳ではありません。2000年以降、アフリカでは新たに2000万人以上の子

どもたちが小学校に通えるようになりました。さらに私たちは、貧困をなくすために必要なお金も、食料も、技術も、知恵も持っているのです。スタンド・アップによって「貧困を終わらせたい」という声がさらに大きくなれば、世界中の代表者をたちを動かすことができます。私たち一人一人の声が、MDGs達成への大きな力になります。